【戯曲募集】

《ナビイチリーディング》では、ブラッシュアップを希望する戯曲を募集します。既に上演したものでも構いません。地域の第一線で活躍する俳優によるリーディング上演をした後、ゲスト劇作家を迎えたディスカッションで、あなたの戯曲の新しい魅力を発見します。エントリーは無料です。詳細は日本劇作家協会東海支部 HP などをご参照ください。応募多数の場合は、きちんと読んだうえで、取り上げる戯曲を選考いたします。ぜひともご応募ください。

＊詳細については、日本劇作家協会東海支部 HP からお問い合わせください。

■ナビイチリーディング｜今後の予定

第四回目：11 月 27 日（月）

第五回目：12 月 18 日（月）

＊以後もほぼ月一の割合で開催。

■お問い合わせ

○日本劇作家協会東海支部 HP

○Loft Plan：電話 090-9929-8459

□主催：日本劇作家協会東海支部、ナビロフト、Loft Plan

□制作協力：名古屋演劇教室

日本劇作家協会東海支部×ナビロフト

ナビイチリーディング

【第三回目】

2017 年 10 月 30 日（月）

19:30～21:30

【会場：ナビロフト】

名古屋市天白区井口二丁目 902

TEL/FAX：052-807-2540

□作家ご挨拶□

「ふたりたり、とも」を書いたワケ

「差別は再生産される」

議員の失言を取り上げたニュースの見出しでした。内容は、よくある話だったのですが、私はその見出しに違和感を覚え、「差別とは何だろう」と考え出しました。後になって、違和感を覚えた理由は終着しましたが、それは横に置いておきまして。

考え出した私は、すぐ懐かしい気持ちになりました。思えば、物心ついた時から「差別」は、私と共にあり、幼い私がずっと考えていたのは「差別は無くなるか」でした。そして、私は考えるうちに改めてその問いにぶつかり、同じ答えを出しました。が、それも横に置いておきまして。

人は無数の障害を与えられて、他の生き物と「差」で「別」れて生まれてきます。だから、社会で生活するためには、道具として言葉が必要であり、表情や身体での表現も求められます。では、どこからが「差別」でしょうか？「嫌悪感を抱く」「嫌な顔をする」「仲間外れにする」「傷つくことを言う」「暴力を振るう」「悪意を持って接する」色々考えましたが、この「どこからが差別？」という疑問には、明確な答えが出なかったため、答えが出ればいいなと思って、私はこのお話を書き出しました。

コメディーにしたかったのに、できなかったので、笑えないと思いますが、笑ってもらえると嬉しいです。無茶言って、すみません。

森　らんぽ。

【今月の戯曲】

森らんぽ。

『ふたりたり、とも』

【リーディング・キャスト】

ツル：二宮信也
（スクイジーズ／星の女子さん）

ワカタケ：松井真人
（劇団あおきりみかん）

ト書き：山口未知
（劇団Ｂ級遊撃隊）

コーディネーター：鹿目由紀（劇団あおきりみかん）

ファシリテーター：中内こもる（劇団中内(仮)）

ディスカッション・ゲスト
佃典彦（劇団Ｂ級遊撃隊）